

～水稲情報 NO. 1～

R6. 6. 11～
JA 加美よつば

令和6年産米の稲作は、色麻・中新田区域においては4月1日ごろ宮崎・小野田区域においては4月7日ごろが播種盛期となりました。



管内の田植え盛期（50%田植えが終了した日）は5月9日頃で、18日頃にはほぼ終期（90%）となりました。5月は風の強い日が多く、田植え後に植え傷みが発生した圃場では、初期の生育が停滞したと推測されます。今後の水管理、雑草対策、病害虫防除を徹底し、『高品質米・良食味米』づくりに努めましょう。

1. 生育状況（生育調査結果 加美よつば管内ひとめぼれ平均）

6月10日現在の生育状況は、草丈で28.1cm（平年対比100.4%）、莖数で10.8本（㎡当たり157.3本、平年対比76.9%）、葉数は5.9枚で平年並みになっております。強風の影響により植え傷みが見られるほ場や、表層剥離の影響で分けつが抑制されている圃場が見受けられます。

2. 水管理（早期莖数確保）

早期に目標本数（概ね1株当り20本程度）を確保するため、2～3cm程度の浅水管理（低温の心配がある場合は5～6cmの深水）を励行し、分けつを促進させましょう。

- ※中干し ○亀裂が入り、軽く足跡がつく程度まで行う。
- 溝切を行い、中干しの効果を高める。
- 穂づくりに入る前（7月10日頃）には中干しを終了する。
- 中干しは田面全体に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度にしましょう



※低温時は深水管理（5～6cmの深水）で稲の生育保護も必要です。

3. 葉いもち病防除（箱処理剤を使用していない場合）

葉いもち病予防のため主食用米以外（飼料用米・WCS用稲）にもオリゼメート粒剤を散布しましょう。

4. 雑草対策

●今年も気温の高い日が予想されます。去年は、気温が高い影響で後発のヒエが多く、カメ虫の被害が多く発生いたしましたのでご注意を

※ヒエ・シズイ・ホタルイはカメムシの発生源です！残草のないようにしましょう。

◇初期剤＋中期剤または、初中期一発剤を散布したが（散布後10日以上経過するのに・・・）

○ヒエが発生している場合はこちら！

★クリンチャー1キロ粒剤	@	1,710円(税込)
田植後15日～ルI4葉期まで		1.0kg/10a
田植後25日～ルI5葉期まで		1.5kg/10a
(但し、収穫30日前まで)		

○ホタルイ、アゼナ類、クログワイ等が発生している場合はこちら！

★バサグラン粒剤 @ 3,350 円(税込)
3～4kg/10a 田植後15日～50日まで
(晴天が、2日以上続く日を選んで散布して下さい。)

※バサグラン粒剤は、1～2cmの浅水で散布、3日間以上入水しない。

Q：雨が降る前に散布した場合は？
A：雨により水中濃度が薄まり効果が不安定になる恐れがありますので散布を控えて下さい。
(※散布後6時間は必要です)

○湛水状態で使用できる中後期除草剤・ヒエ、ホタルイ、クログワイ、イボクサ等が発生している場合はこちら！！

★ゲパード 1キロ粒剤 @ 3,650 円(税込) 1kg / 10a
★ゲパードジャンボ剤 @ 3,820 円(税込) 400g / 10a
田植後14日～ルI4葉期まで (但し、収穫60日前まで)

※ゲパード剤の限界葉齢



ホタルイ	花茎20cmまで	※散布適用期：花茎10cmまで
ノビエ	4葉期まで	
クログワイ	草丈30cmまで	
オモダカ	矢尻葉3葉まで	
コナギ	6葉期まで	
シズイ	草丈20cmまで	※散布適用期：草丈10cmまで
イボクサ・クサネム	○	

※マニュアル米で使用できます。(特別栽培米・生活クラブ提携米には使用できません。)

5. 水稻の高温障害対策

●昨年は、気温が高い日が多く白未熟粒が多く発生しましたのでご注意を
水稻へのケイ酸施用効果

- ・ 登熟が高まり、粒張り・乳白粒の軽減・食味向上に役立ちます。
- ・ 活力ある根が張り、茎葉が硬く倒伏に強くなります。
- ・ ケイ酸施用により、ケイ化細胞が形成され、いもち病やごま葉枯病にかかりにくくなります。

使用肥料	効果	散布時期	散布量
KSK28	倒伏軽減、登熟向上、高温障害対策(乳白)	中干し後の入水時	1.4kg/10a



@ 2,100 円(税込)

使用肥料	効果	散布時期	散布量
けい酸加里	倒伏軽減、登熟向上、食味向上	出穂前45～35日	20～40kg/10a



@ 3,340 円(税込)